

科目名	看護研究 I	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期 後期	30時間	1単位
学習目標	1 看護における研究の意義と方法がわかる 2 研究のプロセスとその進め方がわかる 3 研究の一連の過程を体験することにより、科学的思考と姿勢をもつことができる				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～2	看護における研究の役割	1 研究とは何か 2 看護研究の意義 3 看護研究の分野 4 看護研究と倫理	講義
3～14	看護研究のプロセス (1) 研究のテーマ	1 問題意識 2 データの収集	講義
	(2) 仮説の設定	1 研究課題の選択 (1) 動機とテーマ (2) 用語の定義 (3) 仮説の設定 2 文献検索	講義
	(3) 研究方法の選択	1 研究デザイン 2 研究方法の選択	講義
	(4) 看護研究計画書	1 研究計画書の意義 2 研究計画書の作成	講義
	(5) 研究結果の活用	1 データの分析 2 結果 3 考察・結論	講義
	(6) 論文の書き方	1 論文の構成 2 留意事項 3 抄録の構成	演習
	(7) 発表と講評	1 研究を発表する意義と留意点 2 プレゼンテーションソフトの活用	講義 研究発表(学内)
	(8) 学術集会(学会)参加		学会参加
15	試験(45分)	まとめ	

使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究	坂下 玲子 他	医学書院
参考図書・資料等	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院
評価方法	筆記試験、レポート、看護研究の実際、学会参加報告から総合的に評価する		

科目名	看護研究Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	3年次	前期 後期	30時間	1単位
学習目標	1 自己の看護を振り返り、看護に対する考えを論理的に追求し、研究的態度を養う 2 研究的態度を継続する必要性を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1	事例研究とは何か	1 事例研究の意義 2 事例研究の方法 3 事例研究と倫理	講義
2～5	研究の実際	1 研究のテーマの設定 2 研究計画書の作成 3 文献検索 4 研究論文の作成 5 抄録の作成	講義
6～13	研究発表準備	1 発表原稿作成 2 補助資料の作成 3 発表練習 4 座長・司会・書記の役割準備 5 発表会場・スケジュールの確認 6 リハーサル	講義
14～15	研究発表会		研究発表 (学内)

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 看護研究	坂下 玲子 他	医学書院
	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方	松本 孚・森田 夏実	照林社
参考図書・資料	アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門 第2版	佐藤 望 他	慶應義塾大学出版会
	ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]	大島 弥生 他	ひつじ書房
評価方法	研究論文 看護研究の実際		

科目名	看護の統合と実践技術	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	3年次	前期 後期	30時間	1単位
学習目標	1 看護実践場面における医療安全と優先順位、倫理的配慮について理解する 2 シミュレータを通して、場面に応じたアセスメントと援助を適切に実施する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～3	チームで協働する看護実践	1 複数患者の状況判断と援助計画 2 多重課題と優先順位 3 時間管理と業務の組み立て 4 看護チームにおけるメンバーシップ 5 看護倫理と看護実践	講義
4～5	場面に応じた看護技術	1 診療の補助技術 (1) 輸液療法、採血、吸引、救命処置 (2) ME機器の操作 など (3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの適応、観察、操作方法	講義・演習 【演習】 (レベルⅢ) 87. 輸液ポンプの取り扱い シリンジポンプの取り扱い
6～14	様々な患者の状況に応じた看護実践	1 様々な状態の患者に対するアセスメント (1) 安全・安楽・自立 (2) 倫理的配慮 (3) タイムプレッシャー (4) 優先順位 (5) 状況に合わせた看護実践 2 援助の方法と留意点 3 なりきり看護師学習 (1) アナフィラキシー症状への初期対応 (2) 初めて化学療法を受ける患者への看護 (3) その他 4 シミュレーション学習 (1) ブリーフィング (2) シミュレーション (3) デブリーフィング	講義・演習  <レベルⅣ> 90. 中心静脈栄養を受けている患者の観察点
15	試験 (90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕 看護管理	上泉 和子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	医療安全ワークブック 第3版	川村 治子	医学書院
	DVD よくある場面から学ぶ多重課題 Vol.3 複数の人との関わり 1・2 ME機器の知識と技術 Vol.1 輸液ポンプ、シリンジポンプ		
評価方法	試験、レポート、技術試験		

科目名	看護管理	時期	時間	単位	
担当教員	副学校長・非常勤講師	3年次	後期	15時間	1単位
学習目標	看護活動を円滑に行うための管理について理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1	看護とマネジメント	1 看護管理学とは 2 看護におけるマネジメント	講義 (副学校長)
2	看護ケアのマネジメント	1 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2 患者の権利の尊重 3 安全管理 4 チーム医療 5 看護業務の実践	講義 (副学校長)
3～5	看護職のキャリアマネジメント	1 キャリアとキャリア形成 2 看護職のキャリア形成 3 看護専門職としての成長 4 ストレスマネジメント	講義 (非常勤講師)
	看護サービスのマネジメント	1 看護サービスのマネジメント 2 組織目的達成のマネジメント 3 看護サービス提供のしくみづくり 4 人材のマネジメント 5 施設・設備環境のマネジメント 6 物品のマネジメント 7 情報のマネジメント 8 組織におけるリスクマネジメント 9 サービスの評価	講義 (非常勤講師)
6	マネジメントに必要な知識と技術	1 組織とマネジメント 2 リーダーシップとマネジメント 3 組織の調整	講義 (非常勤講師)
7	看護を取り巻く諸制度	1 看護職と諸制度 2 医療制度	講義 (副学校長)
8	試験 (45分)		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 〔1〕看護管理	上泉 和子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	地域医療	時期		時間	単位
担当教員	非常勤職員	3年次	後期	15時間	1単位
学習目標	1 新潟県における医療の状況を理解する 2 地域の医療連携体制と地域医療構想を踏まえた病院の役割等を理解する 3 地域医療提供体制構築についての取り組みを理解する 4 地域住民と医療関係者等が取り組む健康づくりの実際を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1	新潟県における医療の状況	1 医療事業と病床数等の推計 2 地域医療における人材育成・確保対策の現状と課題	講義
2	十日町圏域における医療の状況	1 十日町地域の医療連携体制 2 地域医療構想を踏まえた十日町病院の役割 (1) 医療提供体制 (2) 地域包括ケアシステム	講義
3～4	地域医療提供体制の整備	1 新潟地域医療学講座 地域医療部門について 2 取り組み内容 (1) 魚沼等の地域医療の現場に根ざした地域医療提供体制整備 (2) 専門医の認定・更新を可能とする体制整備 (3) その他	講義
5～7	地域医療魚沼学校	1 地域包括ケアにおける地域医療魚沼学校 (1) 学校の沿革・教育目的・教育目標 (2) 学校カリキュラム ①住民が学ぶ ・ナイトスクール、オープンスクール、その他 ②専門職が学ぶ ・地域包括ケアのための IPW 言語講座 専門職種と住民の合同研修会 ・地域包括ケアのための IPW 実践講座 病院から在宅へ、オープン委員会、IPW 回診 ・地域包括ケアのための IPW 大学院 個別の課題解決のための専門研修 ③学生・研修医が学ぶ ・オープンホスピタル、地域医療研修特別プログラム (TMM 講座、EMM 講座) 2 地域医療魚沼学校の講座への参加	講義・ 体験学習
8	試験 (45分)		

使用テキスト	医療経済学・地域医療学	浜田 淳 他	岡山大学出版会
参考図書・資料等			
評価	レポート等から総合的に評価する		

科目名	医療安全	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 安全な医療、看護を提供するための医療安全対策を理解する 2 看護場面で遭遇しやすい医療事故を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1	事故防止の考え方を学ぶ	1 医療事故と看護業務 2 看護事故の構造 3 看護事故防止の考え方	講義 (非常勤講師)
2～4	診療の補助の事故防止 (I)・(II)	1 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 2 注射業務と事故防止 3 注射業務に用いる機器での事故防止 4 輸血業務と事故防止 5 内服与薬業務と事故防止 6 経管栄養 (注入) 業務と事故防止 7 チューブ管理と事故防止	講義 (非常勤講師) 〈レベルⅢ〉 138 誤薬防止
5～7	療養上の世話の事故防止	1 療養上の世話における2群の事故の捉え方と防止 2 転倒・転落事故防止 3 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 4 異食事故防止、入浴中の事故防止	講義 (専任教員) 〈レベルⅡ〉 136 転倒転落予防
8	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	1 業務領域をこえて共通する患者間違い 2 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 3 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義 (非常勤講師) 〈レベルⅠ〉 134 患者誤認
9	医療安全とコミュニケーション	1 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 2 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 3 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 4 事故の未然防止上重要なコミュニケーション	講義 (非常勤講師)
10～11	看護師の労働安全衛生上の事故防止	1 職業感染 2 抗がん剤の曝露防止、放射線被曝 3 ラテックスアレルギー、院内暴力	講義 (非常勤講師)
12	組織的な安全管理体制への取り組み	1 組織としての医療安全対策 2 システムとしての事故防止の具体例 3 重大事故防止発生時の医療チーム及び組織の対応	講義 (非常勤講師) 〈レベルⅠ〉 132 インシデント
13	医療安全対策の国内外の潮流	1 わが国の医療安全対策の潮流 2 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携 3 産業界から学ぶ—ヒューマン・ファクターズ—の取り入れ	講義 (非常勤講師)
14	安全対策の実際	1 事例を通したリスクアセスメント	講義 (専任教員)
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全	川村 治子	医学書院
	医療安全ワークブック 第3版	川村 治子	医学書院
参考図書・資料等	DVD 事例で学ぶヒヤリ・ハット Vol.1 あらゆる看護行為に潜むヒヤリ・ハット		
評価	筆記試験、レポート、演習内容		

科目名	災害看護	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	3年次	後期	15時間	1単位
学習目標	1 健康生活と自立を支えるために必要な災害時期に応じた看護活動を理解する 2 災害関係諸機関と連携しながら、他職種との協働の中で看護の役割を理解する				

授 業 計 画			
回数	項 目	内 容	方法
1	災害医療の基礎知識	1 災害の定義 2 災害の種類と健康障害 3 災害医療の特徴 4 災害と情報 5 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 6 災害看護と法律 7 国内の救護活動の現状と課題	講義
2	災害看護の歩みと基礎知識	1 活動援助としての災害看護のはじまり 2 災害の体験から求められる看護の役割拡大 3 災害看護の定義と役割 4 災害看護の対象 5 災害看護の特徴と看護活動	講義 〈レベルⅠ〉 133 災害時の行動 103. 応援要請
3	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1 急性期・亜急性期 2 慢性期・復興期 3 静穏気	講義
4	被災者特性に応じた災害看護の展開	1 子ども・妊産婦・高齢者・障害者に対する災害看護 2 精神障害者に対する災害看護 3 慢性疾患患者に対する災害看護 4 在日外国人に対する災害看護	講義
5	災害とこころのケア	1 こころのケアとは 2 被災者・遺族・被災援助者のこころのケア 3 援助者のストレスとこころのケア	講義
6～7	看護支援活動の実際（災害医療に必要な看護技術）	1 トリアージ 2 応急処置と搬送（止血法を含む） 3 心肺蘇生法（意識レベル・CPR・AED）	講義・演習 〈レベルⅡ〉104 〈レベルⅢ〉105～110
8	試験（45分）		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学	浦田 喜久子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、レポート		

科目名	国際看護論	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1年次	後期	15時間	1単位
学習目標	1 世界の人々が抱える健康問題を理解する 2 健康格差を生む要因を理解する 3 世界の人々の健康に貢献する看護師の活動について理解する 4 諸外国の医療・看護および日本における在日外国人に対する看護を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1	国際看護の概要	1 国際看護の定義 2 国際看護に関連する基礎知識	講義
2	国際看護活動の支援を必要とする対象	1 国際看護活動が扱う範囲 2 海外における看護活動 3 在日外国人への看護活動	講義
3	異文化理解	1 文化を考慮した看護理論 (1) レイニンガーの看護理論 (2) 異文化のアセスメントモデル	講義
4～5	開発協力と看護活動	1 開発途上国と看護 (1) 貧困と健康 (2) 女性の健康 (3) 感染症	講義
6	国際看護活動の実際①	1 国際協力活動の実際 2 海外における看護活動の実際	講義
7	国際看護活動の実際②	1 諸外国（中国、韓国・朝鮮、フィリピン等）における社会・医療保障制度 2 諸外国における医療・看護の状況 3 在日外国人への看護	講義
8	試験（45分）		

使用テキスト	国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために	森 淑江 他	南光堂
参考図書・資料等	講義の際、適宜提示する		
評価方法	筆記試験、レポート		



科目名	統合実習      2単位   90時間
-----	----------------------

実習目的	既修の知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員としての役割遂行をめざした看護実践力を高める。将来のキャリアを見据えるための一助とするために、看護専門職としての役割、責務、態度について学びを深める。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 複数患者の援助をマネジメントし優先順位、時間管理を意識した看護を実践する</li> <li>2 看護チームの一員としての役割を理解し、看護活動の実際を理解する</li> <li>3 看護の継続性を理解し実践する</li> <li>4 病棟管理・看護管理の実際について理解する</li> <li>5 実際の医療安全の取り組みから、医療安全管理について理解する</li> <li>6 他部門における多職種の役割と看護部との連携の実際について理解する</li> <li>7 専門職業人として主体的に学習し、倫理に基づいた責任ある看護を実践する</li> <li>8 夜間における患者の療養生活や看護の特徴を理解する</li> </ol>